

対話での問いかけ

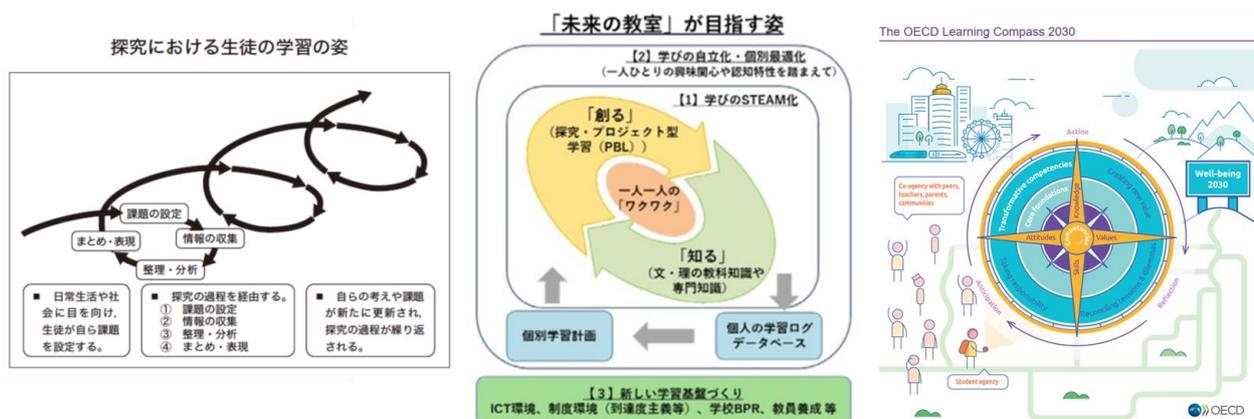
今回の対話では、学校でもよくつかわれる「学びの〇〇サイクル」を題材にしました。資質・能力を育む学びや、学び方そのものに変化が期待される中、下記の問いかけを基に、参加者は考えを深めました。

どのような学びを目指すためのサイクルか？

目的はサイクルを回すことか？サイクルが回れば学びはあるか？

生徒の学習サイクルと、教員の指導サイクルを混同していないか？

学びのサイクルの例



左:https://www.mext.go.jp/content/1407196_21112.pdf 中:<https://www.learning-innovation.go.jp/about/>
右:<https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/>

テーマ設定 背景

学校現場では長く「予習復習サイクル」といった言葉が使われてきました。また、最近では探究的な学びの広がりに伴い「探究サイクル」や、授業改善を目指す「PDCA サイクル」といった言葉も使われていますが、生徒のより良い学びに寄与するために、これらサイクルをどう捉え、どのように位置付けるべきでしょうか。「サイクルを回すこと自体を、目的にしていけないか」などの問題意識を持ち寄り、対話を進めました。

話題提供 - 芦野 恒輔 (プロジェクト 事務局) -

- ・学校はどうサイクルを活用するか、教員はどう関わるかはもっと議論があってよいのではないかな。
- ・予習-授業-復習サイクルは、教員が授業でペースをつくらないと回らない。
- ・PDCA サイクルは、Plan をどう設定するかで得られる学びが変わってしまう。
- ・探究サイクルや AAR サイクルも、あくまで学習行動であり手段。何をめざすかが大切ではないか。

対話の声

- ・どんなサイクルでも、回るまでの「地ならし」が必要。いきなり学習サイクルを提示しても難しい。(奈良)
- ・サイクルそのものより、その前の「興味」「引き付け」、その後の「余韻」が大切ではないか。(福島)
- ・生徒個人のサイクルと、生徒集団のサイクルが違うことに注意したい。後者は指導デザインの話。(福井)
- ・サイクルが回って学びがあったのか、評価が難しい。回ったあとの見取りが大切ではないか。(東京)
- ・ICT 環境整備が進み、学びのサイクルはさらに変わると強く感じた。(神奈川)

本プロジェクトへの「ご参加希望」「校内での対話型研修会のご要望」等は、
運営事務局 ベネッセ教育総合研究所 次世代の学び研究室(nextlearning@mail.benesse.co.jp)までご連絡ください。

本プロジェクトは、新型コロナウイルスの影響により全国の学校が休校せざるをえなかったことをきっかけに、有志により発足されました。プロジェクトでは、毎週行う学校教育活動に関する対話を通じて、「学校教育の革新と、生徒の気づきと学びの最大化」を目指しています。これまでに全国約 80 校から主に中学校・高等学校の教員が参画しています。過去の対話履歴はこちらをクリックください。 [2020](#) [2021](#)